家読（うちどく）をはじめてみませんか？

「家読（うちどく）」って？

家読という言葉はなじみがなく、はじめて聞く人も多いと思います。

家読とは「家族で読書の習慣を共有すること」というと、何だか難しいように思えますが、「家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す」を基本にした、家庭で簡単につくることができる楽しい時間をいいます。

たとえば、「毎週土曜日の夕食後は、わが家の家読タイム」と習慣づけるなど、家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

「家読」公式ホームページより

同じ本をみんなで読めば、会話もいっそう弾みます。また、それぞれが好きな本をすすめあう、家族そろって図書館や書店で本を選ぶなど、読む本について相談しあうことでもコミュニケーションは広がります。

本を読むのが苦手な人も大丈夫です。本といっても物語や小説ばかりが本ではありません。絵が好きな人、スポーツが得意な人、どんな興味をもつ人でも楽しむことのできる本はあります。まずは、好きなジャンルの本から手にとってみることをおすすめします。

「家読（うちどく）」のはじまりは「朝読（あさどく）」から

全国の小・中・高等学校に広がっている「朝読」をご存じですか？

「朝読」とは「朝の読書」を略したことばで、学校の授業がはじまる前の時間を利用して本を読む習慣のことです。

中・高等学校では、朝の10分から15分、自分の好きな本を読むようにしている学校がほとんどですが、小学校では、読書ボランティアを招いて、教室で絵本の読み聞かせや、ストーリーテリング（素話し）をしてもらったりする学校もあります。

この運動が始まって20年余りがたちますが、現在では、約2万6千校の学校で「朝読」が行われていて、小郡市でも小・中学校の全校で取り組んでいます。

▲小郡中学校での朝読の風景

「朝読」は、本を心の栄養素として豊かな人間性を育むことを目指した運動ですが、本を読むことが好きになった、読書量が増えたといった読書に関する効果だけでなく、「授業前に本を読むことで、心が落ち着き授業に集中できるようになった」など、学力にも良い影響があることも報告されています。

この「朝読」で本を読む習慣ができた子どもたちを中心に、家庭でも読書の習慣をつくる**家読**へと運動が広がりました。

読書は栄養がいっぱい！

読書には、どんな良いことがあるのでしょうか。

成長過程にある子どもは、読書をすることでたくさんの言葉を習得し、表現する力をつけます。また、本の世界は想像力を育み、知性や感性を豊かなものにします。そしてそれは生きる力を養うことにつながります。

読書は文字の読める子どもだけのものではありません。幼い子どもには読んであげることで、互いに本の世界を共有することができ、親子の絆やコミュニケーションが深まります。

小郡市の取り組み

しかし、子どもを取り巻く環境も変わり、家庭の中では子どもに限らず大人も本を読むことが少なくなってきたのではないでしょうか。

そこで、小郡市では「小郡市子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもたち一人一人に素晴らしい本との出会いが訪れるように、また、読書が子どもの成長過程における心の栄養となるように、幼稚園・保育所（園）、学校、家庭・地域、図書館のそれぞれで子どもの読書活動の環境を整えていくための取り組みを行っています。

たとえば、10か月児の健診で行っているブックスタートでは、赤ちゃんとその保護者に2冊の絵本をプレゼントして、絵本を介したコミュニケーションをおすすめしています。

元来ブックスタートは、子育て支援のひとつとして始まった運動ですが、幼い頃から絵本を読んでもらい、本と親しむことが習慣になっていると、成長とともに自然と読書の興味へとつながるようです。

▲「絵本って楽しいね」ブックスタートの風景

学齢に達した子どもが生活時間の多くを過ごす学校では、「朝読」のほかに、学校図書館を充実させ、市立図書館と連携して子どもの読書や調べ学習を支援しています。

▲各学校から市立図書館に依頼のあった図書を準備します。

▼週に２回、市立図書館と学校間を運行しているメール便で依頼があった図書を届けます。

このように、小郡市全体で取り組むことによって少しずつ、読書による子育てをすすめています。

そして新たに、今年度からは家庭・地域での活動として**家読**を加え、読書が食事や睡眠と同じように生活の一部となるよう、取り組んでいきます。

全国に広がっている家読の輪

家読の先進地、伊万里市では10月31日に「第一回家読サミット」が開催されました。家読に最初に取り組んだ茨城県大子町は、家庭における読書活動は親子のコミュニケーションを深める極めて有効な方策のひとつとの観点から、青森県板柳町は豊かな心や忍耐力を育んでくれる読書の素晴らしさを伝えていくため、佐賀県伊万里市は平成18年に「いじめなし都市宣言」を行い、「思いやりの心あふれるまちづくり」をすすめていく取り組みのひとつとして家読を始めています。それぞれの自治体でのとりかかりのきっかけや方法は異なりますが、「読書で人を育て、まちづくりを行う」という意気込みが感じられました。

家読に取り組んでいる伊万里市の黒川地区では、一日のうちにテレビを見ない時間をつくる「ストップ・ザ・見放題」運動とあわせて家読を行っています。その効果をはかる毎月一回の調査では、「テレビを消して、家族での会話が増えた」「ノーテレビデー以外の日でもテレビを消して本を読む時間をつくるようになった」という結果が出ています。

「家読」をおすすめします。

▲平安正知市長

小郡市では「子ども読書活動推進計画」に基づき、幼稚園、保育所(園)、学校、図書館、地域など、子どもの生活のなかのあらゆる場所で読書環境を整備し、子どもの成長のために大切な「本との出会い」を支える取り組みを行っています。これは、市長公約(マニフェスト)のなかの「読書のまちづくり日本一」に向けた取り組みのひとつでもあります。

私も子どもの頃から、その時々の興味に応じてさまざまな本と親しんできました。小学生の時、星新一さんの不思議な世界に魅了され次々と夢中になって読んだ思い出があります。今でも星さんの本を見ると、作品世界の面白さとともに、その時のいろいろな思い出がよみがえり、心のなかが温かい気持ちになります。

読書は年齢を問わず誰でも楽しむことのできるものですが、とりわけ子どもの頃の読書は、心の栄養となり、生きる力を養う大切なものです。本を囲んで家族と語らう「家読」で、家庭で本と親しむ時間を習慣にして、子どもの成長を見守っていきましょう。

家読記念講演会のご案内

「読む楽しさを分かち合う ―読みあいからみえてくるもの」

▼日時 12月13日(日) 午前10時15分～正午

▼会場 総合保健福祉センター あすてらす 多目的ホール

▼講師 村中李衣さん

村中李衣さん

梅光学院大学教授。児童文学を専門とし、絵本を介したコミュニケーションの可能性や読書療法などを研究されており、『おねいちゃん』(野間児童文芸賞)『子どもと絵本をよみあう』『絵本のよみあいからみえてくるもの』など著書多数。

▼定員 80人

▼申込・問い合わせ先 市立図書館 ☎72・4319

＊各校区公民館でも家読講演会を開催します。下記の表で日程を確認のうえ、各校区公民館へお申込みください。

	日時		会場	講師	
宝城地区家読講演会	12月12日(土)	午後1時30分～3時30分	御原校区公民館	徳永明子さん	きりん文庫かすが主宰 福岡女学院大学講師
大原地区家読講演会	2月11日(祝)	午後2時～4時	東野校区公民館	斎藤惇夫さん	児童文学者。著書に「ガンバの冒険」シリーズなど
三国地区家読講演会	2月20日(土)	午後2時～4時	のぞみがおか生楽館	森　昭雄さん	日本大学文理学部教授 著書に『ゲーム脳の恐怖』など
小郡地区家読講演会	2月27日(土)	午前10時～正午	小郡交流センター	内海義彦さん	セラピスト
立石地区家読講演会	3月13日(土)	午後1時30分～3時30分	立石校区公民館	小風さちさん	児童文学作家。作品に『わにわにのおふろ』など